

交

い

かいじあむ通信

kai

第59号

2024年2月9日発行
山梨県立博物館

角倉了以像
(瑞泉寺蔵)

山梨県立博物館

Yamanashi Prefectural Museum



富士川 水運の 3年

物流と文化の大動脈
2024.
3.16 (土)
—
5. 6 (月)

物資と文化の往来の歴史

重い荷物を運ぶのに便利な水運は、年貢米輸送などに活躍した。甲斐国の年貢米は、荷物を積み下ろす拠点である三河岸（さんかしかざわ 歟沢・あおやぎ 青柳・くろさわ 黒沢）に集められたのち、高瀬舟に積まれて富士川を下り、岩淵河岸（静岡県）まで送られた。そこから清水湊まで陸送され、海路で江戸浅草の幕府御蔵へ運ばれた。なお、岩淵河岸では塩や干魚といった海産物などが高瀬舟に積まれ、三河岸を通じて甲斐国にもたらされた。



富士川水運船着場（部分 想像図）

あじかざわ 歟沢・あおやぎ 青柳（現富士川町）・くろさわ 黒沢（現市川三郷町）に設置された荷物の積み下ろしの拠点。河岸自体は他にも存在したが、この三河岸は塩などの商品を独占的に取り扱うことを幕府から認められ、内陸地域における商品流通の拠点であった。

青柳
歟沢
黒沢
三河岸

幕府は大阪・京都・江戸に米蔵を設けており、江戸御蔵はそのなかでも最大のものであった。全国の幕府領から米蔵に集められた年貢米は、旗本や御家人の俸禄として支給された。

江戸浅草
御蔵



岩淵
清水
から

富士川を下って岩淵河岸に至った荷物は、馬の背に積み替えられ、陸路で清水湊へ送られた。なぜこの区間だけ馬を使ったかという、富士川の河口部分の流路が絶えず変動し、岩淵より先へは高瀬舟での輸送が困難であったこと、岩淵河岸の間屋の力が大きく、新しいルートの開拓が認められなかったことなどが指摘されている。

19世紀の段階で、三河岸から岩淵に送られた米の総量を13万俵余り、岩淵から三河岸に送られた塩の総量をおよそ8万俵とする資料もあり、膨大な量の物資が富士川を往き来していたことがわかる。

学芸員 おすすめの一品

取蔵資料の見どころを
ご紹介いたします



動物と関わる職人たち

しちじゅういち ほんしよくにん うた あわせ

七十一番職人歌合 江戸時代

中世における多様な職人の姿を描いたもので、当時の職人の様子を知ることができる貴重な資料です。関連する職業を持つ人物が二人一組で描かれ、それぞれの職人が歌を競い合うという形式で書かれています。今回は、動物に関わる職人たちをご紹介します。

十番

馬買おう vs 皮買おう



馬の売買をする職人(馬買おう)と、動物の毛皮の売買をする職人(皮買おう)が描かれています。仕事の時間帯は、どちらも夜明けや日暮れちかくが多かったようです。



皮買おう



馬買おう

五十五番

葦目割り vs 行藤造り



いぬのうもの 犬追物(犬を追いながら馬上で弓を射る訓練法)など武士の弓法で使う葦目の木材を割り抜く職人(葦目割り)と、鹿や熊などの毛皮から行藤を作る職人(行藤造り)が描かれています。



行藤造り

葦目割り

葦目(ワサメ)

鎗矢(やぶ矢)の一種で、木材の中身を割り抜いて音が鳴るようにしたもの。

行藤(なげひら)

馬に乗る際に腰から下を保護するために着用した毛皮製品。

御社のなかの動物をさがしてみよう



富士山牛玉 江戸時代

中央の蓮華座の上に富士山の文字、その左右に2匹の猿、上には雲に乗った阿弥陀三尊像が表されています。こうした絵札は「牛玉」「御影」などと呼ばれ、御師(参詣者を寺社に誘導し、祈禱や宿泊などの世話をする人)や関連する寺社などで作られました。



阿弥陀三尊

中央に阿弥陀如来、向かって右に観音菩薩、左に執持菩薩を配したものをいいます。

富士山

文字が文様化され、中央には宝珠があります。



蓮華座

蓮の花の形をした、仏さまの台座です。

この期間に
会える!

常設展テーマ展示

「歴史のなかの生きものたち」

2024年

6月19日～8月19日

常設展「信仰の足跡」コーナー

富士山の絵札

こうした札は木版で大量に摺られ、配られました。富士信仰の歴史を示す貴重な資料です。

手を合わせ、仏さまを拝む
ポーズがかわいいですね。



浅間神の使い

猿は富士の祭神・浅間神の使いと考えられ、富士山とは緑の深い動物です。

常設展

テーマ展示

国立博物館では、約2か月ごとにテーマを変えて、常設展の展示替えをしています



「春の山梨は花ざかり」

2024.2.14[水]～4.15[月]

甲府盆地に桃や桜が咲き乱れる春。心が湧き立つ季節にぴったりの資料をご紹介します。

「ジャブジャブ?カラカラ?やまなしの水と人々」 2024.4.17[水]～6.17[月]

水もたらす恵みと災い、山梨の人々と水との関係を様々な資料からご紹介します。

「歴史のなかの生きものたち」

2024.6.19[水]～8.19[月]

豊で、育てる、使う、折る、食べる...。人と動物の多様な関係の歴史を紹介します。

「資料でめぐる山梨の旅」

2024.8.21[水]～10.21[月]

展示室の資料をめくってクワクワの山梨の熊に出発!

2024年度 企画展・シンボル展

展覧会の名称は変更となる可能性があります。

シンボル展 郷土史をのこした人々

2024.5.25(土)～6.24(月)

かつての郷土の人々が残した物や記録から、私たちは往時の山梨の姿を知ることができます。こうした歴史資料が現存するのは、郷土史編纂や資料収集に賭けた、先人らの思いとその成果の賜物といえます。本展では、江戸から昭和時代にかけて、ふるさとの歴史を遺すために取り組んだ人々とその遺産についてご紹介します。



「甲州大庫展覧」(白根町)

企画展 どうぶつ百景—江戸東京博物館コレクションより

2024.7.13(土)～9.2(月)

「人々と動物の暮らし」をテーマに、動物と江戸の人々が生き生きと暮らす様子が描かれた浮世絵や、動物をデザインとして取り入れた着物など、動物たちが可愛らしく表現された絵画や生活用品・玩具などをとお楽しみいただけます。東京都江戸東京博物館の所蔵コレクションを中心に、山梨会場独自の資料も交えながらご紹介します。



「とんだりはわたり」(東京都江戸東京博物館)

企画展 奈良大和路のみほとけ—令和古寺巡礼—

2024.9.28(土)～11.25(月)

奈良大和路に伝わる仏像は、時代を越えて読み継がれる『古寺巡礼』を著した和辻哲郎をはじめ多くの文士たちの心を捉え、今も私たちを惹きつけてやみません。本展では、奈良大和路の仏像や仏画に秘められた、悠久の歴史や物語が醸し出す魅力をあますところなくご紹介します。日本を代表する仏像の数々を、この機会にご覧ください。

シンボル展 甲斐国分寺

2024.12.21(土)～2025.2.24(月・祝日)

国分寺は聖武天皇の命により全国に創建され、甲斐国では現在の笛吹市一宮町に建てられました。その後、鎌倉時代の焼失と戦国時代の再興を経て、大正11年(1922)に国史跡の指定を受けています。本展では、最新の発掘成果を踏まえた国分寺の創建時の姿とともに、現在にいたるまでの国分寺と地域との関係の移り変わりをご紹介します。

開館20周年記念特別展 武田勝頼—日本に隠れなき弓取

2025.3.15(土)～5.6(水・祝日)

武田信玄の後継者となった武田勝頼については、近年、評価の見直しが進められ、新たな勝頼像が提示されるようになりました。本展では、武田勝頼の合戦として著名な長篠合戦や、新たな居城として築かれた新府城など、勝頼の事績や関連資料から生涯を振り返るとともに、その人物像に迫ります。

イベントのご案内 2024年4月～9月

各イベントの詳細は当館ホームページなどでご確認ください。

● ボランティアによる お庭の見どころガイド

四季折々の博物館のお庭を散策します。
開催日 4/20, 5/18, 6/15, 7/20, 8/17, 9/12
時間 13:30～14:30

● かいじあむ古文書講座

初めての古文書を学ぶ方のための講座です。
開催日 4/27, 6/22, 8/24
時間 13:30～15:00
申込 ☎ 055-261-2631

● 古文書整理体験教室 定員10名

開催日 6/13
申込 ☎ 055-261-2631 *4/13より受付を開始します。

● 古文書相談日

お手持ちの古文書についてご相談ください。
開催日 5/19, 7/21, 9/15
時間 10:00～13:00
*古文書の全文解説、鑑定など、お受けできない内容もあります。
*申込不要ですが、事前のご連絡があれば対応がスムーズです。
(☎ 055-261-2631)

◎ 常設展スルーガイド

常設展のガイドツアーです。
毎週土曜日 11:00～11:30

◎ あそぼう!まなぼう!寺子屋ひろば

展示や歴史を楽しみながら学べる体験イベントです。
毎週日曜日 11:00～11:30

● かいじあむ子ども工房

博物館ならではの体験や工作ができます。
開催日 4/13, 5/11, 6/8, 7/13, 8/10, 9/14

● 館長トーク

当館の守屋正彦館長による講座です。
開催日 5/25, 7/27, 9/28
時間 13:30～15:00

□ その他イベント

- ・かいじあむ こどもまつり 5/4・5
- ・夏休み自由研究プロジェクト合同プレゼン 7/15(海の日) *会場:アイメッセ山梨
- ・かいじあむの夏まつり 8/14・15

2024年

4月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

5月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

6月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

富士川水運の300年 3/16～5/6

郷土史をのこした人々 5/25～6/24

7月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

8月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

- 休館日
- 館長トーク
- 古文書講座
- 古文書整理体験教室
- 古文書相談日
- 子ども工房
- お庭の見どころガイド
- その他イベント

日程や内容は事情により変更になることがあります。

かいじあむトピックス

山梨県立博物館の旬な
話題をお届けします



博物館の協力員として活動してみませんか？

山梨県立博物館には、博物館の活動を支援してくれる協力会というボランティア組織があります。「かいじあむのお正月」など季節ごとのイベント補助や、ミュージアムショップの運営、博物館のお庭にある畑の作業から所蔵資料の整理まで、さまざまな活動をおこなっています。



畑の作業

博物館の畑では、協力員の協力により、作物を栽培しています。

所蔵資料の整理

学芸員に資料の取り扱いについて指導を受けながら、古文書などの整理をおこなっています。



イベントの補助

工作イベントの補助や、事前準備などをおこないます。



山梨県立博物館では協力員を募集しています

- 博物館が好きな方
- 歴史・文化に関わる活動をしてみたい方
- 協力会の活動に興味がある方
- ボランティア活動が好きな方
- 他ではできない特別な活動をしてみたい方

ぜひ一緒に博物館活動を盛り上げてください。協力員の募集については、当館ホームページをご覧くださいか、または当館まで気軽にお問合せください。皆様の参加をお待ちしています！

山梨県立博物館 協力員

検索

http://www.museum.pref.yamanashi.jp/3rd_kyoryokukai_boshu.htm

利用案内

開館時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日 火曜日(祝日の場合はその翌日)

*4/30、5/3～6、8/13は開館。9/11～13は休館。

観覧料 常設展：一般520円、大学生220円

*高校生以下の方、65歳以上の方、障害者の方(およびその介護をされる方)は無料です。

*企画展には別途観覧料が必要です。県外在住の65歳以上の方は企画展観覧料が必要です。

*割引料金等につきましてはホームページなどでご確認、またはお問い合せください。

かいじあむ通信「交い」第59号

〒406-0801 山梨県笛吹市御坂町成田1501-1

Tel: 055-261-2631 Fax: 055-261-2632

発行日: 2024年2月9日

E-mail: kenhaku@pref.yamanashi.lg.jp

編集・発行: 山梨県立博物館

URL: <http://www.museum.pref.yamanashi.jp>



ホームページ2次元コード



山梨県の古い地名「甲斐国」の語源は街道と街道の結節点を意味する「交ひ(かい)」であるという説があります。

山梨県立博物館が「甲斐」の博物館にふさわしく、人々や情報の交流の拠点となることを願ってこの名前をつけました。